

報告者：久木留 毅（文学部教授）

6月26日(水)

■女子サッカー日本代表と英国代表との試合視察
およびコミュニケーション

ラフバラから車で約30分のバートンで実施された、
女子サッカー代表戦を視察した。観客は近隣の小
学校等への開放もあり、ほぼ満員。試合会場は4部

リーグのバートンアルビオンFCのフォームで収容人員6,000名のスタジアム(ネーミングライツも有り)。



■ラフバラ大学研究拠点活動報告 No.9



ピッチとスタンドの距離や観客席が全て屋根で
覆われている点等を含めて、視察の価値が高
いスタジアムであった。

試合前後にサッカー協会田嶋副会長とコミュ
ニケーションを取り多くの示唆を頂く。さらに、
上田理事およびスタッフからはマルチサポート
事業に関して意見交換を実施した。

6月27日(目)

■ウィンブルドン・テニス視察およびコミュニケーション

ウィンブルドン・テニスを視察。伊達選手、錦織選手の
試合を視察し担当コーチともコミュニケーションを取ること
ができた。さらに、植田強化本部長、福井常務理事と
様々な強化・育成に関するコミュニケーションを取ること
ができた。



6月28(金)

■ラフバラ大学日本人留学生とのミーティング

ラフバラ大学に留学している日本人学生(学部生、修士課程生)に日本のスポーツ事情と今後の方向
性について情報提供を行った。その後、各留学生から様々な留学事情等について意見を聞いた。今後
も引き続きミーティングを実施していくこととした。

■ まとめ

多くの一流と言われる大会を視察し、各スタッフと現地でコミュニケーションを取れることは有益であり、
その中から今後のスポーツ政策に関するアイデアを多く得ることができる。その意味からも外国の地の
利を活かして積極的に視察を行うことが効果的あることを改めて理解している。